

令和3年度 江戸川区立篠崎第二中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	心身ともに健康で、豊かな心を持ち、深く考え、自ら学ぶことのできる生徒の育成	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・人権が尊重され、生徒が安心して学ぶことができ、関わる人が信頼で結ばれた学校 ・将来への夢を持ち、夢の実現に向けて自己の向上に主体的に取り組む生徒 ・生徒を大切にし、研修に意欲的で、組織的に協働・連携する教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・落ち着いた学習環境の確立 ・何事にも主体的に取り組む成長を遂げる生徒 ・部活動への熱心な取組と対外的な成果 ・特別支援教育の充実 ・若手教員の育成 <課題>・確かな学力の定着 ・生徒が分かったと実感できる授業の実践 ・家庭学習習慣の確立 ・基礎学力の充実を目指した小中連携の推進		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	補充学習、考査前の質問教室、夏季休業中補習教室	補充教室:放課後 。質問教室:定期考査前	A	B	・放課後補充教室への積極的な生徒の参加 ・家庭学習習慣の確立	B	学校では補充学習に取り組んでいるようだが、家庭学習の定着には家庭の協力が不可欠である	今まで以上に家庭と連携し、家庭学習習慣の定着を図っていく
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・学校図書館を充実させ、蔵書を活用した調べ学習の実施 ・個人新聞等を作成させ、発表させる授業の実施	単元や教材により適宜	A	B	・図書館の整備 ・蔵書を活用した調べ学習の実施	B	学校図書館の整備が進んでいるようなので、コロナが収まったら是非視察したい	図書委員会の活動内容を見直し、学校図書館の活用を推進していく
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	毎時間の体育の授業における補強運動の実施	毎時間	B	B	・毎時間の補強運動による基礎体力の向上	B	健康増進のためにも今後も継続して行ってほしい	生徒の状況を見極め、運動強度を上げていく
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	学校連携観戦の実施 オリパラ教育の実施内容の充実	学年ごとに観戦実施 適宜	B	C	・オリパラコーナーの充実 ・コロナの影響により学校連携観戦の未実施	B	生徒の観戦が中止になったことは非常に残念である	レガシーとして継承していけるよう働きかける
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・技能や効果的指導法の研修参加 ・ALT勤務時間内打合せ時間確保	・指導力向上に向けて研修会への参加 ・勤務時間内のALT打合せの実施	B	B	少人数による習熟度別指導を行い、個に応じた指導の実施	B	英語教育の必要性も十分理解できるが、しっかりした日本語の使い方や言葉遣いも身に付けさせてもらいたい	勤務時間内にALTとの打合わせ時間を確保し、十分な活用を互いに協議する
特別支援教育の充実	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	校内いじめ対策委員を機能させ、いじめの未然防止・早期発見・早期解決	適宜開催	A	A	いじめ対策委員会が機能し、未然防止・早期発見・早期対応の実践	A	いじめに対しての学校体制及び取組が十分に分かった	今後も、「いじめは絶対に許されない」ということを全教員で伝えていく
	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・週1回の教育相談委員会での情報共有の徹底 ・不登校加配教員を活用した生徒対応	週1回実施 適宜対応	A	A	教育相談委員会が機能し、情報共有及び学校体制での対応の実施	A	様々な事情を抱える生徒の対応は、大変であろう	今まで以上に、教育相談委員会を活用し、個に応じた対応を学校体制で進めていく
	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	GIGAスクール構想に向けて、ICT支援員を活用しての研修の実施	年間3回	A	A	GIGAスクール構想に対応し、校内研修の実施 オンラインによる授業配信	A	個に応じた教育ができるよう準備を進めてほしい	ICTを活用し、個別最適な学びを充実させていく
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	小中連携の日の設定 小中連絡協議会の実施	年間3回実施	C	C	コロナ禍により情報交換のみ実施	C	コロナの状況を見極めできることから実施でよい	状況を見極め、できることを確実にやっていく